

■（179）被災した地域への思いを込めた小さな写真展

岩手県釜石市唐丹町の公民館で手作りの小さな写真展が催されている。白黒写真は半世紀前の地元中学校の学級写真。震災直後に体育館のフロアをついたてで仕切っただけの「教室」のカット。被災前の地域を記録したビデオから切り出した写真なども並ぶ。

高台で丈夫な建物だった公民館は地震や津波に耐えた。だが、眼下の漁港は壊滅。防潮堤は一部が破壊された。その脇の小学校も津波にのまれた。高台の中学校の校舎は次の地震の揺れに耐えられないと解体された。地区の児童・生徒は今、中学校敷地のプレハブ校舎で学んでいる。その敷地に鉄筋コンクリート造りの校舎を建設するはずだったが、国から建設費が高過ぎなどと注文が付き、木造校舎に変更した。その再設計に時間がかかったため、校舎の完成は早くても2017年春で予定より1年遅れる見通しになった。仮設校舎は震災から6年続く。小学校時代をすべてプレハブ校舎で過ごす児童もでてくる。

公民館の写真展がいつまでも続くなれば、大人になった子供らはどんな思いで自分らの写真を見るだろうか。「大変だったけど、すっかり復興したね」と言えることを願う。(山)